
双子の二人「ファースト」

レイン氷花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子の二人「ファースト」

【Nコード】

N4012D

【作者名】

レイン氷花

【あらすじ】

双子の紅は、貧血持ちで、病弱の天才高校生。蒼は運動神経抜群で、妹思いな元気少女。この双子が揃えば、最強！？双子の二人「ゼロ」の続編！

（前書き）

まあ、読んで見て面白くなかったら、途中で止めていいですよ？
では レインの小説御覧くださいいな

「蒼。」

「何？」

「頼むから止めてくんないかな。」

「何を？」

蒼はとぼける。

現在の俺が置かれている状態は、一言で言うと、かなりいい。だが！

「裸でくつつかないでくれ。」

「ええ〜！気持ちいいのに？」

そう！今俺が置かれている状態は、蒼が裸で添寝しているのだ！だが俺も漢だ！嬉しくない訳が無い。だがな。この状態が続くと、俺の理性がぶっ壊れちまうんだよ。

「もっと一緒にいようよ。」

「いや、だからさ、服着てくれ。頼むから。」

「い〜やっ！」

コイツ！って、え！？チョット待て！パンツに手を入れやがった！？

「うふふ〜、紅を裸に〜」

「おい！？待て！待て！それは止めるー！」

願いも空しく、蒼にパンツを奪われた。

「わぁ、おはよ、紅の〇〇〇〇」

「こら、返せパンツ。」

「いゝやゝだ！」

蒼からパンツを取り返すべく、身を乗り出して腕を掴む。が、元々無理な姿勢で掴んだ為、蒼に覆い被さってしまった。

「わぁ、紅って大胆だね。」

「変な冗談つくな。」

ガチャン！

「おにーちゃん！起きて！？、る…。」

バタン！ドタドタ！

「ありやりや、桃には刺激が強過ぎたかな？」

「最悪だ…。」

その後の俺は忙しかった。桃の誤解を解く為に1時間以上を費やし、朝食を抜いて学校に行くしかなかった。

「紅、顔色悪いよ？」

「誰のせいだよ。」

「さぁ？誰のせいでしょう。」

コイツ！本当にム力つく奴だな！

「もういい、行くぞ。」

かなり疲れた…、朝からこんなに疲れると、眠くなって、…大変だ。

「大丈夫？気分悪いなら学校休む？」

「いや、いい。」

くそつ、とは言ったものの、意識が、薄れ、て、き…、た……。

「わ！本当に大丈夫！？無理しないで！」

「無理はしてね、え…。」

「もう！昔から体が弱いんだから無理しないでよ。」

蒼の声が遠くなっていく……な…。

次に俺が目を覚めたのは、ベッドの上だった。

「目え覚めた？」

「覚めた。」

「良かった。」

「ここはどこだ。」

「病院。」

病院か、道理で、見覚えが無いと思ったら、運び込まれたのか。また。

「今何時？」

「10時56分。」

「結構寝たな。」

「ごめんね。」

「謝るな。」

「ごめん。」

「蒼のせいじゃない。」

「でも、倒れた原因は私なんだよ?」

「それでも、蒼のせいじゃない。」「優しいね、紅は。」

そう言つて、涙を拭う。

コイツはいつも俺を思ってくれている。そう言つ事であれば、俺はコイツの足元にも及ばない。

「眠たい?」

「全然。」

「じゃあ、何か話する?」

「お前は眠くないのか?」

「ちよつと眠い。」

「だったら、寝れ。」

「嫌だ。紅と話する。」

「くま出来てるぞ。」

「いいんだよ、僕は。」

「眠ってくれよ。頼むから。」

「どうして?」

「お前の寝顔が見たいから。」

「え、え!? な、何言つて…。」

「蒼の寝顔が見たいんだ。だから、寝てくれ。」

蒼の顔が、急激に赤くなっていく。

「うん、分かった。お休み、紅。」

「お休み、蒼。」

蒼は、数秒で寝息をたてて、その純粋な顔を覗かせる。

「ゆっくり休め。蒼。」

蒼の頭を撫でる。

満月か、病室から見たくはなかったな。

自嘲気味に自分を笑う。

紅の長い夜は続く。

今更思うのだが、蒼は俺が好きだ。家族として、双子として、異性として、勿論、俺も蒼が好きだ。でも、いつまでこんな日常が続くか…。

「悲しいな、今すぐにでも抱き締めたいのに出来ないのは。」

紅の長い夜は続く。

それが辛ければ辛い程、長く感じる。

紅に許されているのは、蒼の幸せを願う事。

（後書き）

また、続編書くんで、宜しくねえ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4012d/>

双子の二人「ファースト」

2010年11月24日16時04分発行